

## アジアヘッドクォーター特区

[指定：平成23年12月、認定：平成24年7月]

## I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値  $(5+4.8)/2=4.9$ 

4.9

## i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	外国企業のアジア統括拠点及び研究開発拠点の誘致数	100%	5
2	外国企業と都内企業との引き合わせ件数	142%	5
3	金融系外国企業の誘致数	143%	5
4	その他の外国企業の誘致	105%	5

評価指標毎の進捗の評価の平均値  $(5 \times 4 + 4 \times 0 + 3 \times 0 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 4 = 5$ 

5.0

・1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。  
(例)評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

## ■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

## ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

4.8

## II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii)の平均値  $(4+2+3.7)/3=3.2$ 

3.2

## i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

4.0

## ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

2.0

## iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

3.7

### Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

3.3

・昨年度までと比べて大いに進んだ印象を受ける。幅広い規制特例の活用、独自の取組等が事業の進展につながることを高く評価する。

・規制緩和を利用した項目に関しては、国際会議等参加旅客不定期航路事業による、内航海運を利用したMICEとの接続機能強化(補強)は現在国土交通省港湾局が進めるPORT2030の「内航海運強化」「海上輸送の多様化」という方向性にも合致し、その効果が多方面にも波及することが期待できる。ビジネスジェット利用に関しても同様に、東京・羽田のポテンシャルを十二分に活用した事例となることが期待される。

・東京のポテンシャルそのものに頼っているという印象が拭いきれず、ポテンシャル以上のより「攻め」の度合いの強い戦略を規制緩和活用と共に進めていくことが、東京という土地柄から求められ得るものと判断する。

・イベント業者や、財務・税務・金融の専門家の協力を得て、独自に現行法の精査や規制緩和、財政・税制・金融支援を活用すると、事業展開が更に加速すると期待できる。

・誘致した外国企業が「アジア統括拠点」であることを明記すると、成果がさらに明確になる。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

3.3

### 総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算  $(4.9+3.2+3.3 \times 2) \div 4 = 3.7$

3.7

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

・評価は5～1(評点)で行う。

・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。

・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。